

建学発 2016-第 0079 号

2016年6月15日



株式会社 富士工

代表取締役社長 井上 恵資 殿

一般社団法人 日本建築学会
会 長 中島 正愛



DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 197 選」の選定、
および選定建築物の歴史的価値の継承と保全について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、DOCOMOMO Japan の選定による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 197 選」のひとつにこのたび、貴社の施工による日野市立中央図書館が新たにリストアップされました。本会では DOCOMOMO Japan と連携し本選定作業に協力しており、日野市立中央図書館の歴史的、文化的価値について十分認識する立場から、その価値の継承と保全についてご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

DOCOMOMO Japan は、日本におけるモダン・ムーブメント（近代運動）の建築についてその保存と記録に関する活動を推進する学術組織で、2000 年に設立されました。本会では 1999 年、建築歴史・意匠委員会内に DOCOMOMO 対応ワーキンググループを設置し、DOCOMOMO Japan 設立のための準備活動を進めました。その後も DOCOMOMO Japan の活動を支援し、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の選定について、1999 年度に 20 件、2003 年度に 80 件、2005 年度に 15 件、2006 年度に 10 件、2007 年度に 10 件、2008 年度に 10 件、2009 年度に 5 件、2012 年度に 14 件、2013 年度に 10 件、2014 年度に 10 件、計 184 件の建築のリストアップを、DOCOMOMO 対応ワーキンググループを通じ DOCOMOMO Japan と協力しながら行ってきました。

日野市立中央図書館が有する歴史的、文化的価値については、DOCOMOMO Japan による別紙（「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 197 選」へのリストアップのご報告、ならびにその歴史的価値の保全についてのお願い）および「記録・評価書」にあるとおりですが、貴下におかれましてはその意義についてご確認いただき、現存の建物およびその周辺環境の保全、維持に格段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本会ではこの建築の保全に関して、学術的観点からのご相談をお受け致します。

敬具

2016年6月15日

株式会社 富士工
代表取締役社長 井上 恵資 殿

DOCOMOMO Japan
代表 松隈洋



日野市立中央図書館

の「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 197 選」へのリストアップのご報告、
およびその歴史的価値の保全についてのお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、DOCOMOMO Japan ではこのたび、一般社団法人日本建築学会の協力を得て、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 197 選」をとりまとめました。そのひとつとして、貴社の施工による日野市立中央図書館を選ばせていただきましたので報告させていただくとともに、この建築の歴史的価値の保全にご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

DOCOMOMO (=The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement の略称、「ドコモモ」と読みます) は、モダン・ムーブメント (近代運動) の推進に寄与した建築の歴史的、文化的重要性を訴え、その記録と現存建物の保存に関する活動を展開する国際的学術組織です。1989 年にオランダで設立され、現在は本部 (DOCOMOMO International) をポルトガルのリスボンに置き、60 を越える国・地域が加盟して活動しています。DOCOMOMO Japan はその日本支部で、2000 年に発足しました。その重要な活動のひとつに「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の代表的作品を選定する作業があり、これまで計 184 件の建築をリストアップしてきました。今回、このリストに 2015 年度に選定された 13 件を新たに加えることになり、日野市立中央図書館がそのひとつとして選定されました。

「モダン・ムーブメント」は 20 世紀の建築の主要な潮流のひとつで、18~19 世紀に端を発する合理主義的、社会改革的な思想や技術革新を背景に、1920~30 年代に西欧で明確な形をとりはじめ、線や面の構成による美学にもとづいた建築を多数生み出してきました。日本においても、1920 年代からその影響を受けた建築が建設され、現存している建物は日本の近代化の足跡を物語るうえで重要な文化的資産と考えられます。こうした観点から DOCOMOMO Japan では、下記の基準にもとづいて、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の選定を行なってきました。

- 装飾を用いるのではなく、線や面の構成による美学が適用されている。
- 技術の成果がデザインに反映されている。
- 社会改革的思想が見られる。
- 環境形成 (広場や建築群の構成) という観点でデザインされている。

以上のような高い文化的価値と歴史的意義についてあらためてご確認いただき、日野市立中央図書館およびその周辺環境の保全、維持に格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。なお、日野市立中央図書館が有する価値については、別紙の「記録・評価書 (Documentation Fiche)」をご参照ください。

また、DOCOMOMO Japan では、この建築の保全について、必要ある場合は学術的観点からのご相談をお受けいたします。

ご不明の点等ございましたら、下記問い合わせ先までご連絡いただければと存じます。

敬具

【お問い合わせ先】

DOCOMOMO Japan 事務局

email: docomomojapan@yahoo.co.jp URL: <http://docomomojapan.com/> (事務局長 亀井靖子)

2015 年度選定建築物 記録・評価書
Minimum Documentation Fiche 2015

0.1 建物・敷地の写真

外観および内観

写真内容:日野市立中央図書館外観および内観

撮影者およびクレジット: 渡邊研司

日時:2016年4月23日

中庭側外観



エントランス周り外観



吹抜け閲覧室



書架



db
code

1. 建物・建物群・都市計画・ランドスケープ・庭園の名称・住所等

1.1	現在名称：日野市立中央図書館	3
1.2	旧名称：日野市立中央図書館	4
1.3	町名：豊田 2-49	5
1.4	市・区名：日野市	6
1.5	都道府県名：東京都	7
1.6	郵便番号：191-0053	8
1.7	国：日本	9
1.8	その他の住所分類（日本の場合なし）：	10
1.9	建物の類別：図書館	11
1.10	保存の条例、選定、登録文化財等指定：なし	12

2 建物の履歴

2.1	竣工時の用途・目的：図書館	13
2.2	年代：設計および竣工：施工 1972 年 8 月～1973 年 3 月	14
2.3	設計者：鬼頭梓建築設計事務所（鬼頭梓、長谷川鉦、草野光廣）横浜国立大学（佐藤仁、山田弘康）	15
2.4	他協力者（構造家・エンジニア等）および施工者：構造：木村俊彦構造設計事務所（木村俊彦、花輪紀昭、林貞夫） 設備：環境計画研究所（鈴木茂、柳原一東、小坂武夫）サイン：西林利裕、清水誠、監理：日野市建設部建設課、鬼頭梓建築設計事務所、施工：富士工	16
2.5	改修等変更の年代：2013 年 1 月 区画整理による道路変更に伴う外構工事、2015 年 6 月屋上防水および天井改修工事、2015 年 3 月 耐震診断プロポーザル	17
2.6	現在の用途：図書館	18
2.7	現況の様子：外構部分を除き、大きな変更等は見られない。	19

3 解説

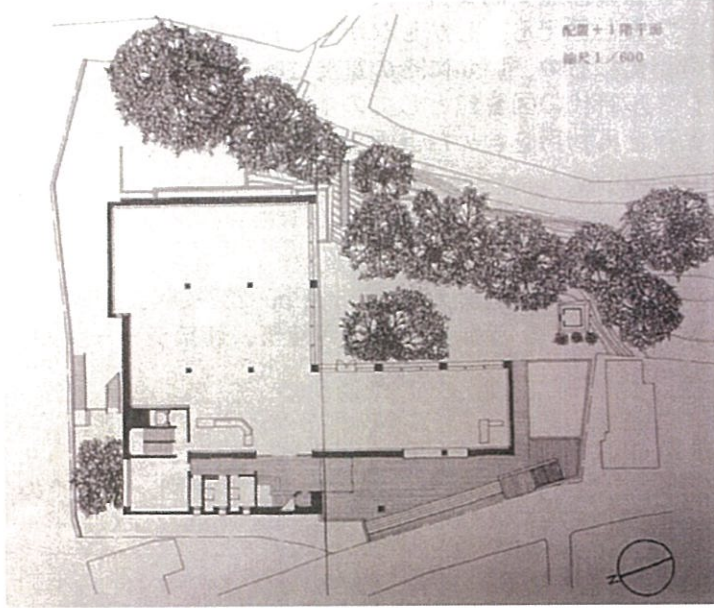
3.1	概要：前川建築設計事務所から独立して手がけた東京経済大学図書館に続く、鬼頭梓の代表作と言われ、自らも人生をかけた挑戦と言わしめた公共図書館建築である。東京郊外のベッドタウンとして開発される日野市において、住民たちの図書館への思いが移動図書館という形で始まり、それをイギリスの図書館を調査した館長の前川恒雄らとともに鬼頭が受け継ぎ、公共図書館建築として実現したものである。	20
3.2	構造・施工：構造は、地下 1 階、地上 2 階の鉄筋コンクリート構造であり、敷地が有する段差を有効に使いながら、公共図書館としての機能を満たしたものとなっている。中庭に面した閲覧室は 2 層分の吹き抜けであり、耐候性高張力鋼およびアルミ自然発色サッシュが使用されている。	21
3.3	周辺環境：駅前から歩いて 10 分ほどの郊外住宅地の中にあり、敷地の北面は、多摩丘陵の縁にあたり、8m ほどの高低差がある。もともと建物部分にあった神社を中庭に移設しているが、鳥居と階段は残され、静かな雰囲気を保ったまま建築が存在している。	22

4 評価

4.1	技術性：吹き抜けを有する閲覧室空間と書棚のある開架スペースを明快に分割し、北側からの採光も考慮されている。敷地が有する段差を有効に活用し、移動図書館機能の搬出入に対して機能的な処理がなされている。設計に際して、「図書館の発展、利用の変化に対応できる図書館とあり、図書館の蔵書は増加し、利用も増加す	23
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

る。図書館の機能、資料情報検索手段、サービスシステムはどんどん新しくなる。これらの変化に対応できる図書館である」ことが考慮された。また平面計画として、「利用しやすく働きやすい図書館：利用者は館内の資料の配置、自分の位置がわかりやすく、ゆったりした気分で利用できるようにする。利用者・職員の動線はできるだけ短くする。内部は単純で明快な配置にする」ということも考慮された。

4.2



社会性：公共図書館の 24
先駆的な存在であり、図書館学の専門家でもあった館長の前川恒雄や横浜国立大学建築学科の計画学の研究者であった佐藤仁、山田弘康らとともに、今で言う所のワークショップ的な設計プロセスが実施されたことに社会性が見られる。鬼頭らが中心となって考えられた中央図書館設計の方針として、「新しい図書館建築の道標となる図書館：日野市立図書館の誰でも、どこでも、何でもというモットーを実現す

るため、分館、移動図書館を中心とする活動をいっそう高めるための中央図書館であること」。さらに「親しみやすく、入りやすい図書館：図書館は誰でも普段着で入れる建物でなければならない。前を通る人が誘い込まれるような雰囲気を持つ図書館であること」が意識された。

- 4.3 文化・審美性：先の指摘したように、地域密着型の公共図書館としての文化的な貢献度は高い。RC造でありながら、外壁面を赤褐色のレンガ半枚積で仕上げている、北欧的な佇まいを見せている。設計趣旨の中には、「歳月を経るほど美しくなる図書館とされており、図書館は数千年の昔からあり、人間の文化を生み、伝え、広めてきた。これからもそうである。図書館のこのような長い生命と意味にふさわしく、市民が市民自身の文化を育てる砦として、いつまでも使い守るに価する建物であること」とし、その文化・審美性が意識された建物である。 25
- 4.4 歴史的背景：初代館長であった前川恒雄によれば、中央図書館の建設の必要性が以下の5点にまとめられている。(1)蔵書が各々1万冊以下の分館に分散していて、利用者はどこの分館でも一度で欲しい本を探し出すことが難しく、不満が出てきた。(2)蔵書が増えると書庫のない図書館ではストックできず、このための無駄な労力が次第に大きくなった。(3)リクエストが増えてくると、リクエストを処理するため、ある程度まとまった蔵書を持つ図書館が必要となってきた。(4)利用者は本を読むだけでなく、もっと深く研究するための講座や読書会を図書館で開くことを求めるようになってきた。(5)移動図書館で働く職員は、激しい労働を終えても休息する場所がなかった。さらに移動図書館自体も車庫がなく野ざらしであった。このように対象の建物ができる前から移動図書館によって住民による意識の高まりに対応するという歴史的背景を有しており、設計者の鬼頭梓にとってみても、東京経済大学図書館に続き、2番目の図書館であり、かつ始めての公共図書館であった。設計に当たっての基本的な方針として、(1)図書館のサービス組織全体のための中央図書館である。言い換えれば、図書館は建物ではないという意味を生かすための 26

建物をつくる。(2) 中央図書館として必要な機能がそれまでの図書館サービスの中からはっきりしてきている。これを建物に表現するということが考慮された。建設後、各地から公共図書館のお手本として多くの見学者があり、各地の公共図書館の設計の指針となった背景を持つ。

- 4.5 総合評価：首都圏の郊外都市の発展に際して、その地域住民のために計画、設計された公共図書館としての存在意義は歴史的背景、技術性、社会性、文化・審美性の観点から見て極めて重要であると言える。しかしながら、近隣の駅周辺および宅地開発等によって、周辺環境が変わる中、いかにその重要性を受け継いでいくのか、特にインターネット、デジタル時代の図書館としての本館のあり方が問われており、なお継続した議論と保存と再利用を含めた計画案の策定が必要であると考え

5 資料・文献

- 5.1 一次資料（初出誌）および重要資料：新建築 1973 年 8 月 pp. 237-254、鬼頭梓＋鬼頭梓の本をつくる会編、建築家の自由 鬼頭梓と図書館建築、建築ジャーナル、2008 年 28
- 5.2 画像に関する資料提供者： 29
- 5.3 記載者（日付）： 渡邊研司（2016 年 5 月 15 日） 30
追加資料（新建築からの引用）1 階・2 階・地下 1 階平面図、断面図、竣工時の全景

